

自性寺



JISHO

Masterpieces of Zen Culture from Jishoji

2023年5月15日(月)―7月8日(土) 花園大学歴史博物館 (無聖館4階)

前期: 5月15日(月)―6月10日(土) 後期: 6月12日(月)―7月8日(土) ※会期中、大幅な作品の展示替を行います。

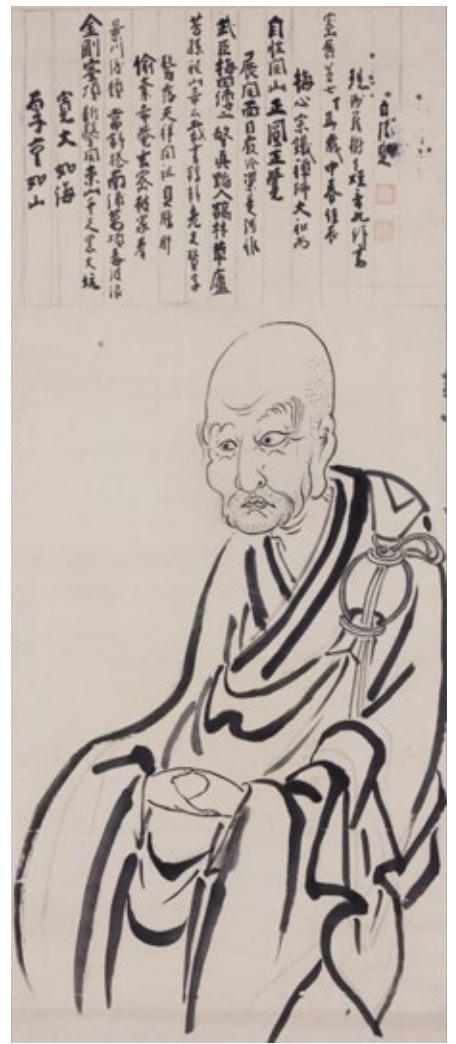
休館日: 日曜日(5月21日は開館)、祝日 ※但し、大学行事により臨時休館する場合があります。

主催: 花園大学歴史博物館、公益財団法人 禅文化研究所 協力: 自性寺(大分県中津市)

開館時間: 10時―16時(土曜日は14時まで)

入館料: 無料

離摩居士園(部分) 海門福格齋・雲谷等潤筆 江戸時代(19世紀)【後期】



1

自性寺

金剛山自性寺(臨済宗妙心寺派、大分県中津市)は、天正5年(1577)、興平信昌(1555~1615)が三河国(愛知県)に建立した金剛山萬松寺を前身とします。萬松寺は梅心宗鉄(1603)を開山に迎えて開創され、興平家の菩提寺として展開します。以後、幾度かの開基家・興平氏の転封にともない、寺基も移されたと伝えられています。そして、享保2年(1717)に中津へ転封となり、この時の住持であった秀巖祖田によって現在地へ移されました。延享2年(1745)には、中津藩初代藩主・興平昌成(1694~1746)が父・昌章(1668~95)の追福のため、その法名に因んで寺号を萬松寺から自性寺へと改称しました。

その後、白隠慧鶴(1685~1768)の法嗣・提洲禅怒(1720~78)をはじめ、海門禅悟(1743~1813)、寧山禅慧(1708~1838)等の近世禅林における名だたる傑僧が住し、九州における最初の白隠下の道場として多くの雲衲を輩出しました。また、提洲禅怒と親交のあった池大雅(1723~76)の書画が内部を飾る大雅堂を有することでも広く知られています。

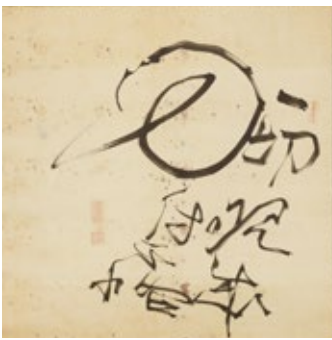
本展覧会では、花園大学歴史博物館と禅文化研究所デジタルアーカイブス事業との共同調査の成果として、今日にまもり伝えられてきた自性寺の文化財を展観します。歴代住持に関する資料をはじめ、興平家歴代肖像画、近世禅林墨蹟や近世絵画など実に多彩です。これらの文化財を通じて、中津の地にて興平家とともに歩んできた自性寺の歴史を紹介するとともに、同地に華開いた禅文化の魅力に迫ります。

記念講演会II「白隠禅師と提洲和尚」芳澤勝弘氏(花園大学国際禅学研究所顧問) 6月6日(火)13時~14時30分 花園大学教室

定員60名 参加をご希望の方は、禅文化研究所へお申し込みください。
禅文化研究所(電話075-811-5189、ファックス075-811-1422、メールinfo@zenbunka.or.jp)



2



3



4



5



6

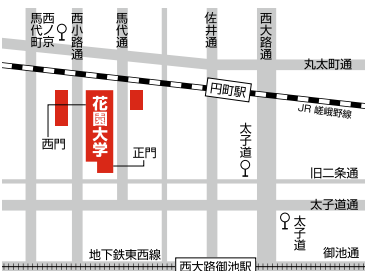


7

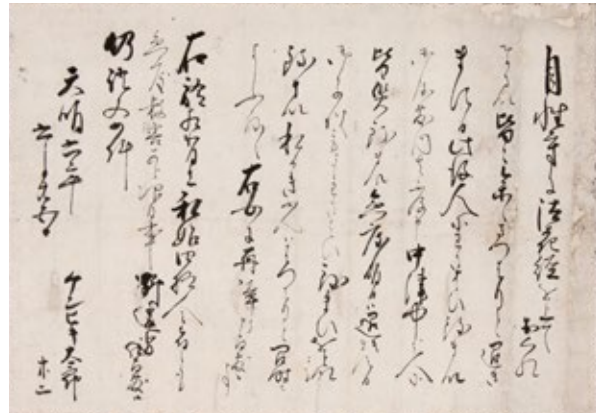
Masterpieces of Zen Culture from Jishoji

- 1 梅心宗鉄像 白隠慧鶴自画像
江戸時代・宝暦7年(1757)【前期】
- 2 龜姫像 江戸時代(18世紀)【後期】
- 3 墨蹟遺稿 提洲禅怒筆
江戸時代・安永7年(1778)【後期】
- 4 月船玄樞像 嶺南崇六筆・木村徳忠筆
江戸時代・寛永15年(1638)【前期】
- 5 白鷺図 探龍筆 江戸時代(18世紀)【前期】
- 6 騎龍觀音図 賢巖禅悦自画像 江戸時代(17世紀)【後期】
- 7 蓬萊山図 山口雪浪筆 江戸時代(17~18世紀)【前期】
- 8 ケンヒキ太郎詠状(河童の詠状)
江戸時代・天明6年(1786)【通期】

花園大学歴史博物館 (無休館4階)
〒604-8545 京都市中京区西ノ京壹ノ内町8-1
電話075-811-5181代
ファックス075-811-6944 <https://www.hanazono.ac.jp>



〈交通案内〉●京都駅より/JR嵯峨野線「円町駅」下車徒歩8分、市バス26・205「太子道」下車徒歩5分 ●京阪三条駅より/京都バス62・63・65・66「西ノ京馬代町」下車徒歩2分、地下鉄東西線「西大路御池駅」下車徒歩12分 ●阪急西院駅より/市バス26・27・特27・91・202・203・205「太子道」下車徒歩5分 ※駐車場がございませんので、お車のご来場はご遠慮ください。



8